

12-A. ヨコバイ目・頸吻亜目

現地調査では、片山栄助・渡辺剛の両氏の御協力をいただいた。また、栃木県立博物館の中村剛之氏には、収蔵標本の調査でお世話になった。ここに心より感謝申し上げる。

(1) ヨコバイ目・頸吻亜目の生息状況

香川・樋口 (2003) によれば、栃木県からは 17 科 275 種 (文献では 18 科 274 種となっているが、科数と種の通し番号の間違いがある) が記録されている。また、香川・樋口 (2003) では、森島 (2001) の文献引用がないが、森島 (2001) ではウスマエグロハネナガウンカ、シリアカハネナガウンカ、クワヤマハネナガウンカ、クロフハネナガウンカ、他に未同定種 2 種の栃木県初記録種が記録されている。これ以降、カワムラヨコバイ、ザオウウンカ (栃木県林務部自然環境課・栃木県立博物館編, 2005「レッドデータブックとちぎ」)、キウイヒメヨコバイ (佐藤, 2003) の記録がある。また、栃木県立博物館収蔵標本からトビイログンバイウンカ、ハウチワウンカの栃木県未記録種を確認した。以上の結果から、栃木県産頸吻亜目は 17 科 286 種を確認した。

林 (1998) によれば、頸吻亜目の日本産種数は、分類学的な位置および所属が明らかな未記載種や未記録種を含み 19 科 914 種とされる。全国的に調査の進んでいる埼玉県からは、17 科 367 種が記録されている (林, 1998)。県内で最も詳細な調査が行われたと考えられる塩谷町からは、栃木県産の約 80% に相当する 16 科 222 種が記録されている (林ら, 2000)。

以上のように栃木県における本分類群の解明率は、まだまだ低いレベルにあるのが現状である。その理由として大きなグループでありながら県内に研究者や愛好者が少ないこと、また難解な同定を必要とする分類群の存在がある。今後の調査により、種数の多いアワフキムシ科、ヨコバイ科、ウンカ科などの調査が進展すれば、相当数の種の増加が容易に予想できる。

本調査では、文献記録のみの 8 科 22 種を含め 12 科 44 種が確認された (表 VII-12-A-(1)-1)。この結果、西那須野・塩原地区からは栃木県産の約 15% の種数が記録されたことになる。県レベルと同様に当該地区においても、調査の進んでいるチョウ・コウチュウ目などの分類群の生息状況や自然環境から推測して、少なくとも塩谷町の種数程度は追加されるものとする。

【表Ⅶ-12-A-(1)-1 ヨコバイ目・頸吻亜目の科別種数一覧】

科名	種数	文献記録のみ	注目種	保全種	栃木県産※	
セミ科	4	2		1	12	
コガシラアワフキ科	1				1	
アワフキムシ科	10	5			25	
トゲアワフキムシ科	1	1			2	
ツノゼミ科	3	3			8	
ヨコバイ科	12	5			151+2=153	
ヒシウンカ科	1				11	
ウンカ科	1	1			36+1=37	
(シマウンカ科)					1	
ハネナガウンカ科	7	4	3		9+6=15	
コガシラウンカ科	2				4	
(テングスケバ科)					4	
(グンバイウンカ科)					3+2=5	
アリヅカウンカ科	1	1	1		1	
(マルウンカ科)					2	
アオバハゴロモ科	1				2	
(ハゴロモ科)					3	
計	12科	44種	22種	4種	1種	275+11=286種※

※香川・樋口（2003），森島（2001），佐藤（2003），栃木県林務部自然環境課・栃木県立博物館編（2005），栃木県立博物館収蔵標本による。

解明率からすると、残念ながら当地区の生息状況について概観するには時期尚早である。確認種をみると、シマウンカ科、テングスケバ科、グンバイウンカ科、マルウンカ科、ハゴロモ科からの記録がないが、普通種の欠落等もあり調査の進展により確認されるものと考えられる。

注目種としては、「レッドデータブックとちぎ（2005）」に掲載されているアカエゾゼミ（和田山；準絶滅危惧）、アヤヘリハネナガウンカ（千本松；準絶滅危惧）、マエグロハネナガウンカ（千本松；情報不足）、クワヤマハネナガウンカ（小滝；情報不足）、アリヅカウンカ（千本松；準絶滅危惧）があげられる。

アカエゾゼミは局所的な分布をし、少ない種である。ハネナガウンカ科に属する3種は、森林性でいずれも記録の少ない種である。特にクワヤマハネナガウンカは、県内から足利市・旧黒磯市の2例が知られていただけである。翅が極端に長いハネナガウンカ科は、ススキやチガヤ草地に生息するアカハネナガウンカを除くと一般的に少ない種で、幼虫は菌類から栄養をとるものがあるといわれている。クワヤマハネナガウンカも広葉樹に生育するキノコを寄主とすることが知られている。当該地区からは栃木県産15種中7種が記録されている。アリヅカウンカは地中生活に適応し、幼虫は地中で寄主植物の根から吸汁するという。

（2）保全すべき種

保全すべき種として1種を選定した。国内・県内分布や生態などの解説は、宮武・加納（1992）、「レッドデータブックとちぎ（2005）森島啓司氏記述の項」に拠った。

①アカエゾゼミ（セミ科） 環境省：一、栃木県：準絶滅危惧

北海道、本州、四国、九州に分布する。北海道や東北地方では平地にすむが、関東以西では600～1,200mの山地にみられ、産地は局所的である。ブナ林などの自然度が高い落葉広葉樹林に多い。

県内では那須町、日光市（旧栗山村、藤原町）、那須塩原市（旧塩原町）、葛生町から少数個体が確認されている。成虫は7月から8月にかけて出現し、ジーと連続音で鳴くが、近似種のエゾゼミと鳴き声で区別するのは難しい。

当該地区では、箒川の塩原ダム付近の和田山で記録されている。生息地は溪谷沿いに見られる自然度の高い落葉広葉樹林のため、その保全が本種の生息条件にとって重要である。

なお、本種は、近隣の各県「レッドデータブック」においても埼玉県が「準絶滅危惧」、茨城県が「危急種」、群馬県が「準絶滅危惧」の категорияで選定されている。

(3) 注目すべき種

- ①アヤヘリハネナガウンカ（ハネナガウンカ科） 環境省：一、栃木県：準絶滅危惧
- ②マエグロハネナガウンカ（ハネナガウンカ科） 環境省：一、栃木県：情報不足
- ③クワヤマハネナガウンカ（ハネナガウンカ科） 環境省：一、栃木県：情報不足
- ④アリヅカウンカ（アリヅカウンカ科） 環境省：一、栃木県：準絶滅危惧

（文責：佐藤 光一、松村 雄、多和田 潤治）

【目録】

※科の分類体系、種の配列、和名・学名に関しては、林（1998）に準じた。

科名	和名	学名	A 地域	B 地域	C 地域	山岳 地域
ヨコバイ目・頸吻亜目						
セミ科	アブラゼミ	<i>Graptopsaltria nigrofuscata</i> (Motschulsky)			<input type="checkbox"/> *2	
	ヒグラシ	<i>Tanna japonensis</i> (Distant)	○	○	○	
	エゾハルゼミ	<i>Terpnosia nigricosta</i> (Motschulsky)				○
	アカエゾゼミ	<i>Tibicen flammatus</i> (Distant)			<input type="checkbox"/> *1	
コガシラアワフキ科	コガシラアワフキ	<i>Eoscartopis assimilis</i> (Uhler)				○
アワフキムシ科	シロオビアワフキ	<i>Aphrophora intermedia</i> Uhler				<input type="checkbox"/> *2
	モンキアワフキ	<i>Aphrophora major</i> (Uhler)				<input type="checkbox"/> *2
	ヒメシロオビアワフキ	<i>Aphrophora oblique</i> Uhler				○
	クロスジアワフキ	<i>Aphrophora vittata</i> Matsumura				<input type="checkbox"/> *2
	マダラアワフキ	<i>Awafukia nawae</i> (Matsumura)				○
	マルアワフキ	<i>Lepyronia grossa</i> Uhler				<input type="checkbox"/> *2
	テングアワフキ	<i>Philagra albinotata</i> Uhler				<input type="checkbox"/> *2
	クロスジホソアワフキ	<i>Aphilaenus nigripectus</i> (Matsumura)				○
	クロフアワフキ	<i>Sinophora submacula</i> Metcalf et Horton				○
	ヒメモンキアワフキ	<i>Tabiphora rugosa</i> (Matsumura)				○
トゲアワフキムシ科	ムネアカアワフキ	<i>Hindoloides bipunctatus</i> (Haupt)			<input type="checkbox"/> *2	
ツノゼミ科	ツノゼミ	<i>Butragulus flavipes</i> (Uhler)				<input type="checkbox"/> *2
	マルツノゼミ	<i>Gargara genistae</i> (Fabricius)				<input type="checkbox"/> *2
	トビイロツノゼミ	<i>Machaerotypus sibiricus</i> (Lethierry)			<input type="checkbox"/> *2	<input type="checkbox"/> *2
ヨコバイ科	シダヨコバイ	<i>Japanagallia pteridis</i> (Matsumura)				○
	オヌキシダヨコバイ	<i>Onukigallia onukii</i> (Matsumura)				○
	ズキンヨコバイ	<i>Podulmorinus vitticollis</i> (Matsumura)				○
	ヨモギシロテンヨコバイ	<i>Mileewa margheritae</i> (Melichar)				<input type="checkbox"/> *2

科名	和名	学名	A 地域	B 地域	C 地域	山岳 地域
(ヨコバイ科)	ツマグロオオヨコバイ	<i>Bothrogonia ferruginea</i> (Fabricius)	○		○	□*2
	オオヨコバイ	<i>Cicadella viridis</i> (Linnaeus)			○	○
	マエジロオオヨコバイ	<i>Kolla atramentaria</i> (Motschulsky)			○	□*2
	クロヒラタヨコバイ	<i>Penthimia nitida</i> Lethierry			□*2	
	ブチミヤクヨコバイ	<i>Drabescus nigrifemoratus</i> (Matsumura)				□*2
	ツマグロヨコバイ	<i>Nephotettix cincticeps</i> (Uhler)				○
	マエジロヒロヨコバイ (マエジロイチモンジ ヨコバイ)	<i>Handianus limbifer</i> (Matsumura)				□*2
	シロズオオヨコバイ	<i>Oniella leucocephala</i> Matsumura				□*2
ヒシウンカ科	ヨモギヒシウンカ	<i>Oecleopsis artemisiae</i> Matsumura			○	
ウンカ科	ヒメトビウンカ	<i>Laodelphax striatella</i> (Fallén)				□*2
ハネナガウンカ 科	アカハネナガウンカ	<i>Diostrombus politus</i> Uhler			□*2	
	アヤヘリハネナガウン カ	<i>Losbanosia hibarensis</i> (Matsumura)			□*2	○
	マダラハネナガウンカ	<i>Pamendanga matsumurae</i> (Muir)				○
	マエグロハネナガウン カ	<i>Zoraida pterophoroides</i> (Westwood)			□*2	
	クワヤマハネナガウン カ	<i>Zoraida kuwayamae</i> (Matsumura)				○
	アカフハネナガウンカ	<i>Epotiocerus flexuosus</i> (Uhler)				□*2
	キスジハネビロウンカ	<i>Rhotana satsumana</i> Matsumura			□*2	
コガシラウンカ 科	ウチワコガシラウンカ	<i>Catanidia sobrina</i> Uhler				○
	ナワコガシラウンカ	<i>Rhotala nawae</i> Matsumura			○	○
アリヅカウンカ 科	アリヅカウンカ	<i>Tettigometra bipunctata</i> Matsumura			□*2	
アオバハゴロモ 科	アオバハゴロモ	<i>Geisha distinctissima</i> (Walker)		○		

【参考文献・引用文献】

※目録に引用した文献は、末尾に*を付している。

- 林正美, 1998. 埼玉県の半翅類 異翅目および同翅目頸吻亜目. 埼玉県昆虫誌 I. 埼玉昆虫談話会, pp. 147-234.
- 林正美・佐藤光一・森島啓司, 2000. 5. 塩谷町の半翅類. 塩谷町の自然 (塩谷町自然誌編纂委員会編). 塩谷町, pp. 558-588.
- 香川清彦・樋口弘道, 2003. 同翅目 Homoptera. 栃木県自然環境基礎調査 とちぎの昆虫 I. 栃木県林務部自然環境課, pp. 138-167.
- 岸本良一, 1996. ウンカ・ハゴロモ類. 日本動物大百科 (全 11 巻) 第 8 巻 昆虫 I. 平凡社, pp. 140-142.
- 宮武頼夫・加納康嗣, 1992. 検索入門 セミ・バッタ. 保育社, 215p.
- 森島啓司, 2001. 栃木県内のハネナガウンカ科 (Homoptera, Derbidae) について. インセクト, 52(2):89-95.
- 森島啓司, 2004. 栃木県内における同翅目 12 種の確認記録. インセクト, 55(2):84-86. *1
- 佐藤光一, 2003. 栃木県宇都宮市下砥上町付近の昆虫類分布記録 (2000-2002 年). インセクト, 54(1):58-59.
- 栃木県林務部自然環境課・栃木県立博物館編, 2005. レッドデータブックとちぎ 栃木県の保護上注目すべき地形・地質・野生動植物. 栃木県林務部自然環境課, 898p.
- 栃木県自然環境調査研究会昆虫部会編, 2003. 栃木県自然環境基礎調査 とちぎの昆虫 I・II. 栃木県林務部自然環境課, 735p. +557 p. *2